

定期的な換気で感染防止

冬は感染リスクが高くなる時期です。熱などの症状が出たら、落ち着いて適切な行動をとることが大事です。

まずはかかりつけ医に電話

現在、発熱した患者に対応するため、かかりつけ医を中心とした診療・検査体制が組まれています。症状が出たら受診する前に、必ず身近な医療機関に電話で相談して、指示に従います。医療機関などで感染を広げないためにも事前連絡が必要で、相談先が分からない場合は、市新型コロナウイルス相談センターに連絡してください。(☎0942・300・9335、FAX 0942・300・9833)

家族に感染が疑われたら

家族に感染が疑われる場合、家の中でも注意が必要です。
①部屋を分ける
食事や寝るときも別室に。
②世話は限られた人が行う
心臓や肺に持病がある人や糖



寒くても小まめに部屋の換気を。1時間ごとが目安です。窓を開けるときは空気の流れを意識することが大事です

尿病の人などは世話をしない。
③家の中でもマスク着用
マスクを外すときはゴムやひもをつかみ、表面に触れない。

④小まめに手洗い
手首や指の間も洗う。

⑤定期的な換気

時間を決めて、共有スペースや他の部屋の窓も開ける。

⑥手で触れる共有部分を消毒
薄めた家庭用塩素系漂白剤などで消毒し、水拭き。

⑦洗濯は手袋とマスクを着けて
汚れた衣類やシーツは直接触れずに洗濯。

⑧ごみは密閉して捨てる

使ったマスクやティッシュペーパーなどは、すぐにビニール袋に入れ、密閉する。

●保健予防課(☎0942・300・9730、FAX 0942・300・9833)

市ホームページ「新型コロナウイルスに関する情報」へ詳しくはQRコード

年末年始も気を緩めない

全国で感染者が急増しています。年末年始には、一人一人が今まで以上に意識して対策を。

感染予防して楽しむ

年末年始や連休などは人の移動が多くなります。時期をずらして帰省や旅行をするなど密を避けて行動するのも対策の一つです。帰省先や旅行先、交通機関での移動中も油断せずに対策をしましょう。国土交通省、観光庁は「新しい旅のエチケット」として次のような注意点をまとめています。

【交通】
■すいている時期、時間帯に移動。余裕を持って

■車内の会話は控えめに

【旅の飲食】
■会話をするときにはマスク着用
■料理は最初に取り分ける

【宿泊】
■部屋は小まめに換気
■ドアノブやエレベーターのボタンなどに触れたら、すぐに手洗い

【観光施設、ショッピング】
■混むときは、後からゆっくりレジ待ちも、間隔を空けて
年末年始は会食の機会が増えます。少人数や短時間で、斜め向かいに座ったり、ガイドラインを守っている店を選んだりするなど感染リスクを下げながら、楽しむ工夫をすることが大事です。

基本対策は引き続き

マスク着用や手洗い、3密の回避、人との距離をできるだけ2m空けるなどの基本的な感染予防策を続けることが重要です。拡大を防ぐために感染しない、人にうつさない意識で行動しましょう。

●保健予防課(☎0942・300・9730、FAX 0942・300・9833)

観光庁ホームページ「新しい旅のエチケット」へ詳しくはQRコード

地域で頑張る皆さんに
エールを送ろう

新型コロナウイルスで奮闘する皆さんにインタビューしました。

みんなの思いで久留米を元気に

中心市街地をイルミネーションで飾る「くるめ光の祭典ほとめきファンタジー」は今年で16回目を迎えます。毎年5月から準備を始めるのですが、新型コロナウイルスの影響で実行委員が集まることできず、準備が始まったのは9月でした。委員会では中止や縮小の意見は出ず、ほぼ満場一致で開催することを決定。多くのイベントが中止や延期となる中、こんな状況だからこそ久留米を明るくして、元気にしたいという強い思いからでした。

規模縮小や期間短縮はせず、始まりも例年どおり11月から決定しました。コロナ対策も行いながら、できる形を考えました。リモートによる点灯式もその一つです。いつもと違う条件だからこそ、いろいろなアイデアが出てきました。光の

祭典は企業や市民など多くの人の協力を得て行っています。コロナで厳しい状況でしたが、私たちの想像以上に協賛していただきました。「久留米のまちを明るく」という思いは一つなんだと実感しました。

イルミネーションは1月11日祝まで点灯します。私たちの取り組みが久留米市を元気にするきっかけになればうれしいです。



くるめ光の祭典実行委員会 委員長 浅野佑志さん

「イルミネーションを見て、皆さんが明るい気持ちになってほしい」と話しました

焼き鳥フアンこそが殿さま

今年10月に久留米市で「全国やきとリンピック」が開催される予定でした。東京2020オリンピック・パラリンピックの熱気が残る中、全国の焼き鳥の名店が一堂に集まるという企画。

焼き鳥のおいしさや魅力を発信して、全国を盛り上げることができると喜んでいました。3月に実行委員会を立ち上げ、動きだした矢先に中止が決定。ちょうどその時、有馬氏入城400年の話を聞きました。久留米焼きとりファンはまさに「殿さま」だと思い、「殿さま串フェスタ」を思い付きました。

店主はコストや手間暇を優先してしまいがち。「殿さま」が食べたい、楽しいと思う串があってもいいのではと、アイデアを公募しました。出てきたのは、有馬の歴史を入念に勉強した串や、食材が豪華すぎて高額になってしまいう串、仕込みが大変すぎて店主泣かせの串など面白いものばかり。

14の参加店舗で、10月と11月だけ販売する予定が、あまりにも好評で12月末まで延長しています。写真をインスタグラムに投稿するインスタフリーも人気です。「殿さま串」は、地域の歴史や地元食材をいかにおいしく食べるかを改めて知るきっかけになりました。いつか「久留米焼きとり」のれんを掛けた店舗が全国に広がってほしいですね。おいしいと思った人が、本場の味を求めて、久留米に来てもらえるように、これからも「久留米焼きとり」を盛り上げていきます。



久留米焼きとり文化振興会 会長 永松雄一郎さん

「久留米焼きとりはコストもクオリティーも日本一です」と話す永松さん